

【あわら市】
校務DX計画

1. 趣旨

あわら市では、GIGA スクール構想に基づき、令和2年度から ICT 環境の整備を進めてきた。これにより、FAX・押印を原則廃止するとともに、校務支援システムへの不必要な手入力作業を無くすなど取り組んできたが、教育現場では業務の複雑化や負担増加といった課題が依然として存在しており、効率的な校務運営が求められている。

これらの課題を解決するため、本市では教職員の働き方改革の一環として、校務のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、業務の効率化や負担軽減に向けた具体的な取組を進める。

2. あわら市における課題等について

「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果（文部科学省 令和5年11月実施）を踏まえ、課題を明確にした。これらの課題解決に向け、各学校と連携を強化しながら、校務DXの推進を図る必要がある。

（1）1人1台端末の積極的活用

校務DX化チェックリストの結果により、「1人1台端末の持ち帰り学習、クラウドサービスを使用した児童生徒への各種連絡・調査、テストのCBT※1化」について半分未満しか実施できていないことが判明している。そのため、クラウドツールを活用しデジタル化を進めていくことが課題である。

（2）校務のデジタル化

校務DX化チェックリストの結果により、「職員会議や授業研究会、校内研修のクラウド化やハイブリッド化」、「教職員から学校に提出する書類のクラウド化」について半分未満しか実施できていないことが判明している。そのため教職員の校務について、クラウドツールを活用しデジタル化を進めていくことが課題である。

3. 校務DXに向けた取組

上記の課題を踏まえ、校務DXに向けた取組を以下の通り進める。

（1）児童生徒の学習等のデジタル化の推進

児童生徒の学習におけるデジタル化について、既存のクラウドシステムやアプリの利用方法を研究し、実践事例として教職員に提示することを推進する。

また、新たなシステムやアプリを導入していくことで、更なるデジタル化を推進する。

（2）教職員の校務のデジタル化の推進

教職員の業務負担を早急に軽減するため、まずは既存の校務支援システムの活用方法

を研究・実践する。また、クラウドツールを活用し、児童生徒とのリアルタイムでの連絡や学習状況の把握・評価の充実を図るとともに、教職員間の情報共有を促進し、校務の効率化を推進していく。また、校務PCをデスクトップ型からノート型に変更し、ロケーションフリーで校務端末を使用できるようにすることで、校務のクラウド化を図っていく。さらに、次世代の校務システムの導入に向けた検討を行い、校務の負担を減らすことができるようにする。

【注 釈】

※1 「CBT」とは、「Computer Based Testing（コンピューター ベースド テスティング）」の略称で、コンピューターを使用した試験方式のこと。コンピューターのディスプレイに問題が表示され、マウスやキーボード等を使って選択肢を選んだり、答えを入力し解答を行う。